



## 言葉を超えてつながる心

ティモティー アーラッチイゲ デイミトラー ニウイヤーンジャーニー  
THIMOTHI ARACHCHIGE DIMITHRA NIWYANJANIE

日本に初めて来た日のことを今でもよく覚えています。ワクワクしながらも、不安な気持ちもありました。介護の研修生として、新しい国での生活が始まりましたが、特に日本語に自信がなくて心配でした。利用者の方とうまく話せるか不安でいっぱいでした。でも、すぐに気づいたのです。介護は言葉だけでなく「心」でつながる仕事だということに。やさしい笑顔、思いやりのある行動、そしてあたたかい気持ちがあれば、言葉が完璧でなくても気持ちは伝わります。

働き始めたばかりのころ、先輩と一緒に、あるおばあさんをトイレにお連れしました。おばあさんの服が汚れていたのですが、先輩は私に「脱がせてください」と言いました。先輩が新しい服を持って来たので、私は服を脱がせる介助をしました。でも、おばあさんはとても不安そうで、私が何をしているのかよくわかっていませんでした。私のことをまだ信用してくれていないと感じました。そのあと、私はよくそのおばあさんのお世話をさせていただきました。朝はレモンティーを作り、足に塗り薬を塗って、お食事もお手伝いしました。何日かたったあと、おばあさんは「ありがとう」と言ってくれて、他の職員さんにも「とてもよくしてもらっているよ」と話してくれました。その時、以前あった不信感がなくなったと感じて、とてもうれしかったです。

私は一番大切なことは「がまん」だと思いました。うまく伝わらない時や、間違えた時もありましたが、人間関係はゆっくり作るものだと自分に言い聞かせました。ゆっくり話すようにして、よく聴くことを、先輩たちからたくさん学びました。そして、言葉よりも「気持ち」が大事だと気づきました。本当に心をこめて接した時、利用者さんもそれを感じてくれたと思います。

私にとって最も感動的な思い出の一つは、認知症のため少し暴力的なおばあさんがいました。ある日、その方が入浴を終えたあと、服を着せる必要がありました。私はやさしく声をかけながら、その方に服を着せてあげました。そのあと、ベッドに寝かせてオムツをはかせ、もう一度車椅子にのせようとした時、その方が私の頭に手を触れ、そして、私をだきしめて「ありがとう」と言ってくれました。その時、私はスリランカを出発する前に、母が最後に私の頭に触れてくれた時の気持ちを思い出しました。でも、そのおばあさんをお世話するのが最後の日になるとは思ってもいませんでした。翌日、その方は亡くなってしまったのです。

介護を通じて、「愛」「思いやり」「尊敬」は言葉を超えることを学びました。大切なのは「心」だと気づきました。このうつくしい真実を教えてくれた日本に感謝し、どこへ行ってもその気持ちを大切にしていきます。

## 受賞の喜び



国 籍 スリランカ  
職 種 介護  
実習実施者 株式会社ニューライフサポート  
監理団体 国際交流事業協同組合

ティモティ アーラッチイゲ デイミラー  
ニウヤーンジャーニー

このたび、JITCO日本語作文コンクールで、優秀賞をいただけたことを、とてもうれしく思っています。自分の国を代表できたことを誇りに思います。そして、作文を書く過程の中で、日本に来てからの生活を振り返ることができ、自分の気持ちを言葉にすることができたことが、なによりうれしいです。毎日助けてくださる職場のみなさん、そして利用者様に、心から感謝しています。これからも日本語の勉強、介護の勉強を続け、仕事や生活に活かしていきたいと思えます。

## 指導員のことば

スリランカから未知の世界に来て、本当によくがんばっています。わからないことだらけの中でも、いつも笑顔で一生懸命に働いているディミさんは、職場のみんなや施設利用者のみなさんから愛されています。まずは「笑顔」があれば心の国境を簡単に超えることができることを、ディミさんがみんなに教えてくれています。日本語の上達が早いのはそのおかげだと思えます。これからも日本語の勉強、介護の勉強を一緒にがんばっていきましょう。

株式会社ニューライフサポート 代表取締役 船津 悦良